

## 式 辞

今年の冬は例年になく大雪で、横手市では積雪が二メートルを超え、観測史上最高を記録しました。秋田市でも暴風雪がひどく、停電や家電品の故障、公共交通機関の乱れが起こり、日常生活に支障を来したこともありました。

けれども、今ではその荒々しかった冬の姿は影を潜め、校舎に差し込む陽光には、春の暖かさが感じられるようになりました。

本日ここに、教育振興会会長 後藤慎隆 様、一交会会長 竹下博英 様、PTA会長 菅沼真澄 様を御来賓としてお迎えし、三百数十名の保護者の皆様とともに、このように卒業証書授与式を挙げていきますことは、この上ない喜びであり、職員を代表いたしまして、深く感謝申し上げます。

さて、先ほど各担任の先生方から呼名され、心の中で大きく返事をしてくれた二百五名の皆さん、卒業おめでとう。コロナの影響でいろいろ苦しんだり辛い思いをしたり、できることがなくなった皆さんには、お祝いと同時に、苦しみながらも三年生として忍耐強く学校を支えてくれたことに深く感謝したいと思います。本当にありがとうございます。人間、辛い時こそその人の真価が問われると言いますが、学校行事がほとんど無くなって、空虚感に覆われていた時、三年生は学校のリーダーとして、本当に頑張ってくれました。夏の炎天下で行われた球技大会がその象徴だったと思います。

そんな力強い皆さんとお別れするのはとても寂しい限りですが、皆さんには新しい世界が待っているわけですから寂しがってばかりもいられません。何かはなむけを、と考えていたところ、昨日の一交会入会式で司会をされていた佐藤さんが、「入社してくる若い人の中には、頭脳明晰な人はたくさんいるけれど、コミュニケーション能力のない人が多い」とおっしゃっていました。本校の生徒はそんなことは無いようでしたが、いろいろな人と上手く付き合っていくというのは、なかなか難しいことです。けれども、これが上手くできれば、仕事が多少辛くても、人生楽しくやっていけると思います。

中国の思想家に「老子」という人がいます。彼は人の生き方の理想として「上善如水」という言葉を残しています。簡単に言えば「水のように生きなさい」ということなのですが、水のように生きるとはどんなことなのでしょう。水にはいろいろな特徴がありますが、人の付き合いという観点からすると、水はどんな形の器に入れても穴が空いていない限りはその器を満たすことができます。丸でも四角でも、どんぶりでも花瓶でも、今の季節なら長靴でもしっかりと満たすことができます。入れる器を選びません。つまりどんな人とも上手く付き合っていくということ。また、水は低いところへ流れることから謙虚な姿勢を表し、万物を生育させる偉大さをも持ち合わせています。そんな人間になりたいですね。

令和二年はコロナの話がない日は無いぐらいの年であったために、世界的に大きなイベントや行事が中止や延期となりました。私たちの周りでも多くの楽しみが無くなりました。本校創立百周年の式典などもその一つです。辛い出来事もいろいろあったであろうと思います。けれども、皆さんはこの百周年の年の卒業生です。これは誰にも経験できないことであり、今ここにいる二百五名の皆さんにだけ与えられた称号です。自信を持ってください。誇りに思っこの学舎を巣立って行ってください。皆さんの未来が楽しく明るくて生きがいを感じられるものであってくれるよう願っています。

最後になりましたが、保護者の皆様にはこれまで三年間、本校のためにいろいろと御尽力いただきましたことに深く感謝申し上げますとともに、これからも御支援、御協力を賜りますことをおねがい申し上げます、式辞と致します。

令和三年三月一日

秋田県立秋田中央高等学校

校長 尾形 徳昭